

令和5年度

全国学力・学習状況調査結果について
—川崎市の児童生徒の学習・生活の状況—

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

— 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 —

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 114 校 中学校 52 校 特別支援学校 1 校 (小学部・中学部)

小学校 第6学年 11,511名 中学校 第3学年 8,960名

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉 小学校調査 - 国語・算数

中学校調査 - 国語・数学・英語

教科に関する調査は、次の①と②を一体的に出題している。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

〈質問紙調査〉

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

本年度の主な調査項目

- ・ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- ・ ICT を活用した学習状況
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

○調査実施日 令和5年4月18日(火)

○教科に関する調査結果の概要

1 教科に関する調査の平均正答数(問)と平均正答率(%)

令和5年度	小学校調査			
	国語(14問)		算数(16問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
川崎市	9.8	70	10.7	67
全国	9.4	67.2	10.0	62.5

令和5年度	中学校調査					
	国語(15問)		数学(15問)		英語(17問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
川崎市	10.5	70	7.9	53	9.0	53
全国	10.5	69.8	7.6	51.0	7.7	45.6

※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果です。

※文部科学省の公表と同様に、政令指定都市の平均正答率は整数値で表しています。

2 本市の傾向

上記1のいずれの項目の平均正答率も全国の数値を上回っている。また指定都市においても上位に位置している。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示す通りである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。

(△：上回った主な設問 ▼：下回った主な設問 5ポイント以上の差に下線)

結果の概要については、内容・領域等ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

(◇：比較的できている点 ◆：課題があると考えられる点)

小学校 国語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例)・学校ボランティアの人たちにインタビューをして分かったことをまとめて書く。

- ・グラフを用いて、学校の米作りの問題点と解決方法を書く。
- ・資料を読み、運動と食事について分かったことを基に、自分ができるようなことをまとめて書く。
- ・資料の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。

○全体の傾向

・学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では76.5%、「書くこと」では30.5%、「読むこと」では74.2%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では73.9%、「情報の扱い方に関する事項」では65.5%である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の全ての内容において全国を上回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全14問中12問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

△1三(1)ア 【川村さんの文章】の下線部ア(いがい)を、漢字を使って書き直す。(58.8%、+6.0)

△3三 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。(63.2%、+5.6)

○学習指導要領の内容ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと〔思考力、判断力、表現力等〕

◇ 3 一(2) 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることはできている。(78.8%、+4.8)

書くこと〔思考力、判断力、表現力等〕

◆ 1 二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。(30.5%、+3.8)

読むこと〔思考力、判断力、表現力等〕

◇ 2 一 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することはできている。(91.5%、+1.5)

◆ 2 四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。(58.9%、+2.7)

言葉の特徴や使い方に関する事項〔知識及び技能〕

◇ 1 四 文章の種類とその特徴について理解することはできている。(82.3%、+2.5)

◆ 3 三 日常よく使われる敬語を理解することに課題がある。(63.2%、+5.6)

情報の扱い方に関する事項〔知識及び技能〕

◆ 2 三 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。(63.1%、+1.1)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実

話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることを指導すると効果的である。また、インタビューをする前に、自分が知りたいことや疑問に思っていることなどを整理したり、答えを予想したりしておくことも考えられる。その際、インタビューの進め方を友達と確認し合いながら吟味していくと効果的である。

書くこと**○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実**

伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことが大切である。

読むこと**○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の充実**

文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既
有の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。まず、読む目的を意識することを促し、複数の本や資料に書かれている
ことを比較したり関連付けたりして考えると、文章をよく理解したり、自分の考えを広げたりすることにつながる、と実感できるようにする
ことが重要である。また、複数の資料を読んで理解したことを整理したり、理解したことと既
有の知識を結び付けて考えたりしながら、自分の
考えをまとめることが大切である。考えをまとめる際には、理解したことと考えたこと
の関係が分かるようにまとめることを指導すると効果
的である。

言葉の特徴や使い方に関する事項**○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる指導の充実**

日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。話したり聞いたりする活動を通して、敬
語の使い方について理解できるようにしたり、学校行事や客があったときに敬語の使い方を確認したりするなどして指導すると効果的である。

情報の扱い方に関する事項**○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導の充実**

情報と情報との関係を捉えながら、語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりするなど、情報の関係を表す方法を指導す
ることが大切である。様々な情報の整理の仕方を提示した上で、児童が自分の目的に合った方法を選ぶことができるように指導すると効果的
である。

中学校 国語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

(例)・インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。

- ・読書に関する二つの文章を参考にして、これからどのように本を読んでいきたいかについて考え、読書に関する知識や経験に触れながら自分の考えを書く。
- ・「判じ絵」についてまとめているレポートの『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に示す具体例を選択し、その解説の仕方の説明を書く。
- ・古典の原文の中の語句に対応する言葉を、現代語で書かれた文章から抜き出す。

○全体の傾向

・学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では82.6%、「書くこと」では65.6%、「読むこと」では64.2%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では67.6%、「情報の扱い方に関する事項」では63.3%、「我が国の言語文化に関する事項」では73.0%である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全国を上回った。「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」においては全国を下回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全14問中10問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上ある設問はない。

○学習指導要領の内容ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇1一 目的や場面に応じて質問する内容を検討することはできている。(89.1%、+1.6)

書くこと

- ◇3四 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことはできている。(73.8%、+1.7)
 ◆3一 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。(57.4%、+3.1)

読むこと

- ◇ 2 三 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することはできている。(74.9%、+0.7)
- ◆ 4 三 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。(51.2%、+1.2)

言葉の特徴や使い方に関する事項〔知識及び技能〕

- ◇ 2 一 事象や行為、心情を表す語句について理解することはできている。(91.2%、+0.1)
- ◆ 3 二 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある〔おし量って〕。(44.0%、+0.1)

情報の扱い方に関する事項〔知識及び技能〕

- ◆ 3 三 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することに課題がある。(61.9%、+0.1)

我が国の言語文化に関する事項〔知識及び技能〕

- ◇ 4 一 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことはできている。(80.9%、-1.6)

○授業改善に向けて**話すこと・聞くこと****○話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する指導の充実**

聞いたことを基に自分の考えをまとめるには、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、話の内容を正確に理解することが必要である。例えば、実際にインタビューをする学習の中に、共通の目的や状況を設定し、それらに応じた質問の仕方や内容、適切なタイミングなどを検討する活動を位置付けることが考えられる。その際、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができたかなどを振り返ることが重要である。質問の意図を確かめたり、質問を受けた話し手の様子や回答の内容に着目したりするなど、生徒が具体的な場面を捉えて、よい点や改善点などを整理することができるよう指導することが大切である。振り返り際には、録画したインタビューの動画を視聴するなど、ICT 機器を活用することも効果的である。

書くこと**○読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える指導の充実**

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるよう指導することが大切である。その際、学習した知識を観点として文章を読み返すように指導することが有効である。例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするものが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要である。

読むこと**○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える指導の充実**

古典において教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられる。その際、古典の原文と比較したり関係付けたりすることが重要である。また、説明的な文章や文学的な文章においても、既習で扱った教材と今扱っている教材を文章の構成や展開、表現の効果などに着目して比較し、工夫されているところについて根拠を明確にして伝え合う活動が考えられる。その際、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを具体的に挙げることが重要である。

言葉の特徴や使い方に関する事項**○漢字を正しく用いる態度と習慣を養う指導の充実**

漢字の書きについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている 1,026 字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのために、国語の授業では、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことができるよう指導することが大切である。なお、1人1台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりするように指導することも重要である。

情報の扱い方に関する事項**○情報と情報との関係を理解する指導の充実**

話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要である。そのために、「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり、書いたり読んだりする場面で活用できるように指導することが大切である。

小学校 算数

○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例)・3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。
- ・切って開いた三角形を正三角形にするために、開く前の三角形の角の大きさを書く。
 - ・椅子の数が2倍になっても、椅子を重ねた高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。
 - ・二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と計算」では70.2%、「図形」では54.6%、「変化と関係」では75.2%、「データの活用」では68.6%である。全ての領域において全国を上回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全16問中15問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △1(3) 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く。(60.8%、+5.3)
- △2(3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。(34.2%、+9.3)
- △2(4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。(33.2%、+12.4)
- △3(2) 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。(62.1%、+5.4)
- △3(4) $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ。(53.1%、+5.5)
- △4(1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。(55.8%、+9.8)

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

数と計算

- ◇1(4) 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることはできている。(80.8%、 ± 0)
- ◆3(4) (2位数) \div (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに課題がある。(53.1%、+5.5)

図形

- ◇2(2) 正方形の意味や性質を理解することはできている。(87.8%、+0.6)

- ◆ 2 (3) 正三角形の意味や性質を理解することに課題がある。(34.2%、+9.3)
- ◆ 2 (4) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。(33.2%、+12.4)

変化と関係

- ◇ 1 (1) 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることはできる。(94.0%、+0.5)
- ◇ 1 (2) 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることはできる。
(90.2%、+1.7)
- ◆ 4 (1) 百分率で表された割合を理解することに課題がある。(55.8%、+9.8)

データの活用

- ◇ 4 (2) 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできている。(78.8%、+3.1)
- ◆ 4 (3) 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題がある。(57.8%、+1.6)

○授業改善に向けて

数と計算

○筆算を具体物や表などに表すことで、式と関連付けて考察できるようにする指導の充実

筆算の手順を形式的に教えるのではなく、半具体物(ブロックなど)や図などと関連付けて考察したり、半具体物の操作や、図などで考えた結果を式に表したりすることで、筆算の手順を式と関連付けて考察できるようにすることが重要である。また、第1学年や第2学年で学習した、「10のまとまりがいくつ分」などといった十を単位とした数の見方や2位数の表し方に基づいていることを理解できるようにすることも大切である。

図形**○ 底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする指導の充実**

三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、面積の大小を判断できるようにすることが重要である。その際、平行な直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や、三角形の面積を実際に比べることで、異なる形をしていても底辺と高さの関係が等しい場合の面積について理解できるようにすることが大切である。また、底辺が等しい場合、高さによって図形の面積が変化することを高さと面積の比例関係で確認したり、ゴムなどを用いて視覚的に確認したりすることで理解できるようにすることが大切である。

変化と関係**○ 百分率で表された割合について理解できるようにする指導の充実**

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。その際、実際に数と割合と百分率の関係を数直線図や場面絵などに表して整理できるようにすることも大切である。

データの活用**○ 複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実**

目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、言葉や数を用いて他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。また、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、報告書やポスターなどの形式にまとめて発表する活動や、それぞれの考えについて共有したり議論したりするなどの活動を通して、他者に分かりやすく伝えことができるようにすることも大切である。

中学校 数学

○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。
なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

(例)・ -5 、 0 、 3 、 4 、 7 、 9 の中から自然数をすべて選ぶ。

- ・はじめの数にかける数が幾つ、たす数が幾つであれば、その数の和がいつでも4の倍数になることを説明する。
- ・二つの直線が平行になることを、三角形の合同を基にして証明する。
- ・駅伝で、後からスタートした選手が、前にスタートした選手に追いつく地点を求める方法を、グラフや式を用いて説明する。
- ・2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあると主張することができる理由を、二つの箱ひげ図の箱に着目して説明する。

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と式」では66.6%、「図形」では37.8%、「関数」では52.5%、「データの活用」では45.4%である。「数と式」「図形」「関数」において全国を上回った。「データの活用」においては全国を下回った。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全15問中11問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

△1 -5 、 0 、 3 、 4 、 7 、 9 の中から自然数を全て選ぶ。(52.4%、+6.3)

△9 (1) 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する。

(38.4%、+6.3)

▼5 女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める。(39.8%、-6.3)

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

数と式

◇2 数と整式の乗法の計算はすることができる。(83.6%、+3.1)

◇6 (1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることはできている。(90.0%、+1.1)

- ◆ 1 自然数の意味を理解することに課題がある。(52.4%、+6.3)
- ◆ 6 (3) 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することに課題がある。
(44.8%、+3.9)

図 形

- ◆ 3 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解することに課題がある。(34.5%、+4.1)
- ◆ 9 (1) ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。(38.4%、+6.3)
- ◆ 9 (2) 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がある。(40.5%、+3.5)

関 数

- ◆ 4 反比例の意味を理解することに課題がある。(40.5%、-2.3)
- ◆ 8 (3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(44.1%、+1.3)

データの活用

- ◆ 5 累積度数の意味を理解することに課題がある。(39.8%、-6.3)
- ◆ 7 (2) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
(32.0%、-1.6)

○授業改善に向けて

数 と 式

○予想した事柄が成り立つかどうかを具体的な数や文字式を用いて調べる活動の充実

予想した事柄が成り立つかどうかを具体的な数や文字式を用いて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現する活動を取り入れることが大切である。また、予想が成り立たない場合にも、それまでの問題解決の過程や結果を基にして、その理由を考察したり、結論が成り立つための前提を捉えたりする活動を取り入れることが大切である。

図 形**○証明を振り返り図形の性質を論理的に考察する活動の充実**

ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるようにすることが大切である。そして、一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、その問題の条件を見直したり、共通する条件や図形の性質を見いだしたりすることを通して、統合的・発展的に考察することができるようにすることが大切である。また、こうした活動を通して、数量や図形の性質を成り立たせる本質的な条件を見いだそうとする態度を育てることが大切である。

関 数**○事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実**

様々な問題について数学を活用して解釈できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて、問題解決する場面を設定し、それらをどう用いたかについて数学的に説明する活動を充実することが大切である。その際、具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりして、一次関数であるとみなし、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決する活動を意図的に取り入れることが大切である。

データの活用**○データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の充実**

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにすることが大切である。その際、判断の根拠を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにすることが大切である。

中学校 英語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている五つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」）別の目標及び内容に基づき、全ての領域からバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例)・自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る。（「聞くこと」の領域）
- ・ 文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉える。（「読むこと」の領域）
 - ・ 短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書く。（「読むこと」、「書くこと」の領域）
 - ・ 即興で伝え合うとともに、考えとその理由を述べ合う。（「話すこと [やり取り]」の領域）
 - ・ 説明を聞いて、考えとその理由を話す。（「聞くこと」、「話すこと [発表]」の領域）

○全体の傾向

・学習指導要領の領域ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「聞くこと」では63.6%、「読むこと」では58.7%、「書くこと」では32.7%である。全ての領域において全国を上回った（「話すこと」は参考値のため除く）。

・設問ごとの傾向

平均正答率は全17問すべての問題で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

- △1 (1) ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。(85.5%、+6.5)
- △1 (2) 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。(69.7%、+5.3)
- △2 忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する。(71.8%、+10.7)
- △5 (2) 事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する。(72.0%、+7.5)
- △6 友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する。(50.6%、+14.7)
- △7 (1) 図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する。(69.1%、+9.3)
- △7 (2) 図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する。(40.8%、+6.1)
- △8 (2) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。(26.6%、+7.1)
- △9 (1) ① 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。
(53.8%、+13.4)
- △9 (1) ② 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。
(34.2%、+13.3)
- △9 (2) メールの英文を依頼する表現に書き換える。(37.1%、+8.1)

○学習指導要領の領域ごとの結果の概要

聞くこと

- ◇ 1 (1) 情報を正確に聞き取ることはできている。(85.5%、+6.5)
- ◇ 2 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることはできている。(71.8%、+10.7)
- ◆ 3 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題がある。(45.9%、+4.7)
- ◆ 4 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることに課題がある。(56.9%、+2.1)

読むこと

- ◇ 5 (2) 「事実・情報を伝える」と「考えや意見を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことはできている。
(72.0%、+7.5)
- ◆ 6 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題がある。(50.6%、+14.7)
- ◆ 7 (2) 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることに課題がある。(40.8%、+6.1)

書くこと

- ◆ 8 (2) 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。(26.6%、+7.1)
- ◆ 9 (1) 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことに課題がある。(34.2%、+13.3)
- ◆ 9 (2) 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことに課題がある。(37.1%、+8.1)

○授業改善に向けて

聞くこと

○ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る指導の充実

話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要である。そのためには、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上でそれらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるようにすることが大切である。

読むこと

○ 自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取る指導の充実

書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断したうえで読み取ることが重要である。そのためには、日常的な話題に関して、できるだけ現実に近い場面を設定した言語活動を行うとともに、文の一語一語の意味を全て理解する逐語的な読みから脱却し、自分が必要とする情報を読み取ることが大切である。その際、必要な情報と不要な情報を整理しながら読むといった指導の工夫が考えられる。

○ 説明文を読んで、概要を捉える指導の充実

段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要である。そのためには、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握することが大切である。また、各段落の主な内容を関連付けていくことにより、文章全体の大まかな内容を捉えることも求められる。

書くこと

○ 読んだことを基に自分の考えとその理由を書く指導の充実

読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。そのためには、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり、書いたりして表現するなど領域を統合した言語活動を行うことが大切である。

○ 言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける指導の充実

言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。そのためには、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して言語の働きを考えることが大切である。

② 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問紙調査

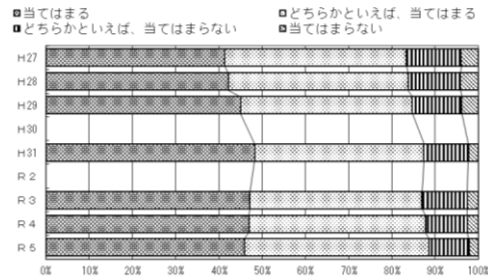
「児童生徒質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合である。なお、令和2年度の調査は全て実施していないので、欄を設けていない。

《学習に対する興味・関心や授業の理解度等》 国語

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国 R5
国語の授業の内容がよく分かる。	83.2%	83.5%	84.5%	—	87.2%	86.9%	87.7%	88.6%	85.7%
国語の勉強は好き。	63.2%	61.6%	64.1%	—	66.6%	60.6%	62.5%	64.2%	61.5%
国語の勉強は大切だと思う。	92.5%	91.8%	91.6%	—	94.4%	94.8%	94.8%	95.3%	94.2%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.1%	88.0%	—	92.0%	93.3%	92.4%	93.2%	92.8%

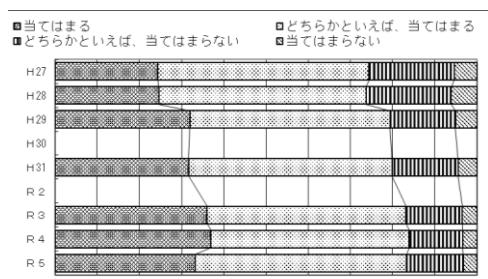
小学校 国語の授業の内容がよく分かる



【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国 R5
国語の授業の内容がよく分かる。	74.2%	73.5%	79.1%	—	79.8%	83.0%	83.8%	83.1%	80.0%
国語の勉強は好き。	62.5%	60.8%	66.1%	—	64.1%	63.9%	65.1%	65.8%	61.4%
国語の勉強は大切だと思う。	88.9%	88.0%	89.2%	—	91.7%	93.2%	93.6%	92.8%	92.4%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	82.7%	83.6%	—	89.2%	92.0%	91.4%	90.1%	88.7%

中学校 国語の授業の内容がよく分かる



＜参考＞ 令和4年度実施 川崎市学習状況調査（小学校5年生、中学校2年生）

- ・国語の授業の内容がよく分かる。
小5 92.6% 中2 86.2%
- ・国語の勉強は好き。
小5 68.5% 中2 65.1%
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
小5 94.5% 中2 91.1%

全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、すべての質問項目で全国を上回った。平成27年度と比較すると、小学校では「国語の授業の内容がよく分かる」が5.4ポイント高くなった。中学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」が8.9ポイント高くなった。それ以外の項目についてもすべて高くなっている。

今後も、子どもたちの「確かな学力」を育むため、「すべての子どもが分かる授業」をめざして、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、国語を学ぶ意義や言葉を扱うことよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

《学習に対する興味・関心や授業の理解度等》 算数・数学

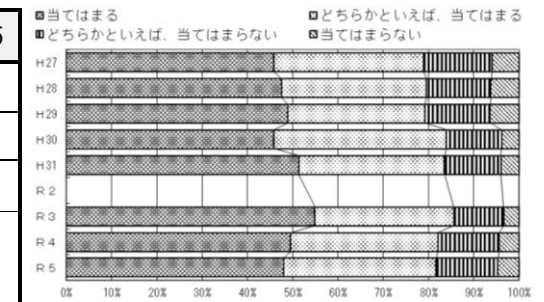
【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国R5
算数の授業の内容がよく分かる。	78.8%	79.3%	78.6%	84.0%	83.4%	85.5%	82.0%	81.6%	81.2%
算数の勉強は好き。	63.8%	66.1%	65.5%	65.3%	69.2%	67.8%	64.0%	61.3%	61.4%
算数の勉強は大切だと思う。	93.2%	92.7%	91.7%	93.0%	94.6%	95.1%	95.6%	94.9%	94.2%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	90.0%	90.0%	88.3%	90.6%	93.1%	93.5%	93.9%	93.5%	93.3%

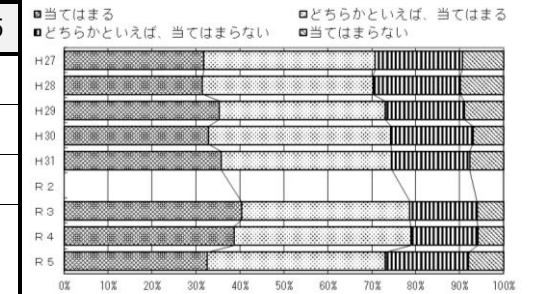
【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国R5
数学の授業の内容がよく分かる。	70.6%	69.8%	72.5%	74.2%	74.5%	78.5%	78.7%	72.9%	73.3%
数学の勉強は好き。	55.1%	56.4%	59.2%	56.5%	59.4%	62.2%	59.1%	56.7%	56.7%
数学の勉強は大切だと思う。	79.2%	78.0%	80.2%	82.5%	82.4%	85.0%	86.3%	84.3%	85.0%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.3%	67.3%	68.6%	68.9%	73.0%	75.5%	76.6%	75.0%	75.8%

小学校 算数の授業の内容がよく分かる



中学校 数学の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、小学校では、3つの質問項目で全国を上回った。平成27年度と比較すると、小学校では、「授業の内容がよく分かる」において2.8ポイント、「社会にでたときに役に立つ」において3.5ポイント高くなった。中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」において2.3ポイント、「数学の勉強は好き」において1.6ポイント、「社会に出たときに役に立つ」において7.7ポイント高くなった。

今後とも、きめ細やかな指導の充実を図り、中学校では、数学の学習をすることの意味や意義を感じられるような授業づくりに取り組むことが重要である。

＜参考＞ 令和4年度実施 川崎市学習状況調査（小学校5年生、中学校2年生）

- ・算数・数学の授業の内容がよく分かる。
小5 83.9% 中2 75.0%
- ・算数・数学の勉強は好き。
小5 65.7% 中2 57.0%
- ・算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
小5 95.9% 中2 79.9%

《学習に対する興味・関心や授業の理解度等》 英語

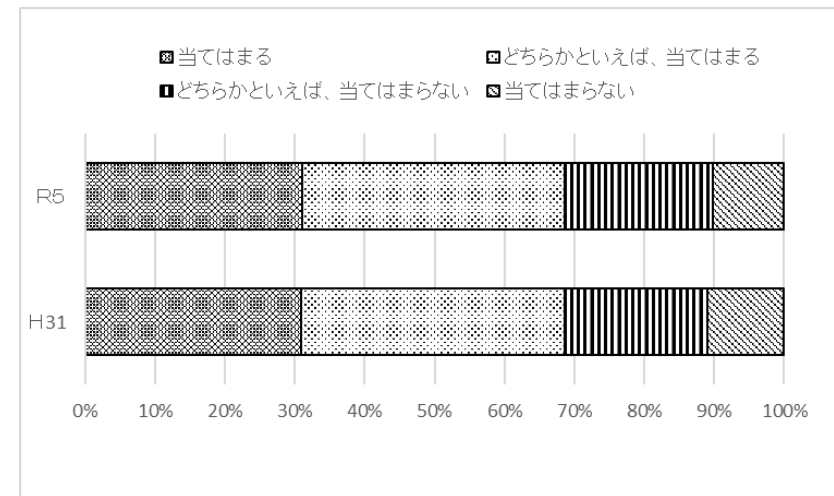
【小学校】

質問項目	H31	R5	全国 R5
英語の勉強は好き。	—	66.7%	69.3%
英語の勉強は大切だと思う。	—	92.6%	91.3%

【中学校】

	H31	R5	全国 R5
英語の授業の内容がよく分かる。	68.4	68.4%	63.9%
英語の勉強は好き。	58.2	57.3%	51.9%
英語の勉強は大切だと思う。	87.8	89.9%	88.0%
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4	89.6%	87.5%

中学校 英語の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、小学校では、「英語の勉強は大切だと思う。」が全国を上回った。中学校では、すべての質問項目で全国を上回った。前回調査の平成31年度と比較すると、中学校では、「英語の勉強は大切だと思う。」が2.1ポイント高くなった。「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」では、1.2ポイント高くなった。

今後とも、児童生徒が互いの考えや気持ちを伝え合う活動を大事にするために、英語を使ったコミュニケーションの目的や場面、状況などを明確に設定した授業づくりに取り組むことが重要である。

＜参考＞ 令和4年度実施 川崎市学習状況調査 (小学校5年生、中学校2年生)

- ・英語の授業の内容がよく分かる。
小5 80.3% 中2 73.9%
- ・英語の勉強は好き。
小5 72.3% 中2 55.7%
- ・英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
小5 93.8% 中2 91.8%

《規範意識、自己有用感等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	全国R5
自分にはよいところがあると思う。	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	81.7%	84.4%	83.5%
将来の夢を持っている。	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	77.7%	79.9%	81.5%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	95.9%	95.7%	96.9%	97.2%	96.9%	96.9%	97.2%	96.9%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.7%	93.2%	92.6%	95.4%	95.4%	96.0%	95.7%	96.3%	95.9%
※ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	95.5%	94.8%	96.0%	—	95.8%	86.4%	89.5%	—	—
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	77.7%	78.0%	78.8%	—	79.3%	73.0%	74.7%	—	—

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	全国R5
自分にはよいところがあると思う。	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	79.3%	79.8%	80.0%
将来の夢を持っている。	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	64.0%	66.1%	66.3%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	91.7%	91.6%	91.5%	94.1%	93.9%	95.9%	96.0%	95.5%	95.5%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.8%	90.9%	90.9%	93.7%	93.4%	94.6%	93.9%	94.6%	94.6%
※自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	93.8%	94.5%	94.8%	—	93.8%	84.5%	86.1%	—	—
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	67.2%	69.4%	71.7%	—	70.2%	66.0%	67.1%	—	—

※H31 までは、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」

規範意識、自己有用感等のこれらの質問項目について全国と比較するとほぼ同程度である。「自分にはよいところがある」との回答は、平成27年度と比較すると小学校は7ポイント、中学校は12.2ポイント高くなった。「将来の夢をもっている」と回答した児童生徒は、平成27年度との比較や全国との比較ともにやや下回っている。

特別活動を中心として、学級活動をはじめとした様々な活動に取り組む機会を設定し、結果だけでなく、それまでの過程においても、一人ひとりのよさや可能性を認め励ますことを積み重ねていくことが大切である。今後も学級や学校生活において自分自身を見つめ、将来の生き方についても考えられる活動を継続することが必要である。

＜参考＞ 令和4年度実施 川崎市学習状況調査（小学校5年生、中学校2年生）

- ・自分にはよいところがあると思う。
小5 81.2% 中2 75.1%
- ・将来の夢をもっている。
小5 84.9% 中2 64.5%
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
小5 95.1% 中2 91.3%

《学習習慣等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	全国R5
家で、自分で計画を立てて勉強している。	60.6%	59.5%	62.6%	66.4%	69.2%	72.4%	72.5%	71.3%	70.7%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	58.6%	59.0%	61.2%	63.2%	63.6%	61.6%	62.7%	58.9%	57.1%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	全国R5
家で、自分で計画を立てて勉強している。	45.6%	46.5%	50.3%	49.1%	46.3%	63.4%	57.4%	55.6%	55.0%
学校の授業時間以外に、普段(月～曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	70.2%	68.9%	71.1%	72.5%	72.6%	80.5%	73.2%	72.1%	65.8%

学習習慣等のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校、中学校ともに全国を上回った。平成27年度と比較すると、「家で、自分で計画を立てて勉強している」において小学校では10.7ポイント高くなり、中学校では、10ポイント高くなっている。今後も、自分で学習の計画を立て、継続的に目標をもって取り組めるよう、家庭学習の充実に向けた取組が必要である。

《主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国 R5
5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	80.7%	80.4%	82.1%	82.1%	82.8%	78.8%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	66.6%	68.6%	69.0%	68.9%	68.4%	63.7%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	69.6%	69.6%	70.9%	80.5%	77.8%	82.5%	83.2%	83.9%	81.8%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	73.9%	72.3%	78.3%	—	74.2%	80.7%	81.1%	82.2%	74.8%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	74.5%	75.7%	78.2%	80.2%	75.7%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国 R5
1、2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	74.7%	77.3%	84.6%	81.9%	82.2%	79.2%
1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	58.5%	62.9%	68.7%	71.7%	73.2%	62.1%
学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	64.3%	66.9%	68.5%	76.7%	73.5%	79.4%	78.9%	80.8%	79.7%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	64.5%	63.8%	71.6%	—	68.5%	79.3%	81.5%	81.7%	72.6%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	65.1%	71.7%	73.4%	75.7%	71.6%

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。」では、小学校は7.4ポイント、中学校は9.1ポイント上回っている。今後も、課題の解決を目指した主体的な学習や、自分の考えを深めたり広げたりできるような対話的な活動を充実させていくことが必要である。

《基本的生活習慣等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	全国R5
朝食を毎日食べている。	94.9%	95.0%	94.5%	93.8%	94.5%	94.0%	94.0%	93.3%	93.9%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.6%	79.1%	78.6%	76.5%	80.4%	81.2%	80.7%	79.5%	81.0%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	89.8%	89.5%	87.7%	90.9%	90.1%	89.2%	89.9%	90.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	全国R5
朝食を毎日食べている。	91.1%	90.4%	90.8%	88.7%	89.8%	90.8%	89.6%	89.6%	91.2%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	71.8%	72.6%	73.4%	71.6%	74.3%	76.3%	76.3%	71.6%	78.0%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2%	90.6%	91.2%	88.6%	90.1%	90.6%	90.1%	89.3%	91.3%

基本的生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校、中学校ともにおよそ同程度であるが、中学校では、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている。」が、6.4ポイント下回った。

<参考>

令和4年度実施 川崎市学習状況調査（小学校5年生、中学校2年生で実施）

・朝食を毎日食べている。 小5 94.6% 中2 89.6%

《 I C T を活用した学習状況 》

【小学校】

質問項目	R 4	R 5	全国 R5
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの I C T を週3回以上使用している。	65.7%	67.4%	62.4%
学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	94.6%	95.2%	95.1%

【中学校】

質問項目	R 4	R 5	全国 R5
1、2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどの I C T を週3回以上使用している。	64.4%	73.9%	61.1%
学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	92.7%	94.1%	93.3%

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「5年生（1、2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどの I C T を週3回以上使用している。」では、小学校は5ポイント、中学校は12.8ポイント上回っている。

《地域や社会に関わる活動の実施状況等》

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国 R5
今住んでいる地域の行事に参加している。	53.1%	55.3%	47.4%	52.5%	57.0%	45.0%	41.1%	47.5%	57.8%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	全国 R5
今住んでいる地域の行事に参加している。	34.3%	35.0%	31.9%	38.6%	39.9%	31.2%	27.1%	27.7%	38.0%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は 10.3 ポイント、中学校は 10.3 ポイント下回っている。

「キャリア在り方生き方教育」をはじめとして、様々な活動を通して地域や社会の問題や出来事に関心を高め、地域の一員として、住んでいる地域の行事への参加や参画につながる指導の充実を図ることが大切である。